

三方よし！ 近江日野田舎体験



近江日野田舎体験の取り組みを推進し、 地域活性化に取り組みます！

今年で4年目を迎えた「三方よし！近江日野田舎体験」の取り組み。毎年、多くの方が日野の地を訪れ、日野町の自然や歴史文化、農林業などの体験を通して地域の人々と交流し、人と人との支えあい、人と自然との関わり大切さを学び、感動を得られています。

づかれています。そして、少しずつ、地域や農林業、日野町での日常の暮らしに対する自信と誇りを回復されています。

まさに「三方よし」。町では、近江商人の「売り手よし 買い手よし 世間よし」の三方よしの教えにならない、引き続き「三方よし！近江日野田舎体験」による地域活性化に取り組んでいきます。

教育現場も求める体験

子どもを取り巻く社会環境の変化により、自然や農林漁業などを子どもたちが体験する機会が減少しています。

以前は、私たちの暮らしそのものが自然と向き合いながら成り立っていました。日常の暮らしの中にあったさまざまな体験が地域の人たちや子ども同士の人間関係をつくる機会となり、人の痛みを理解

し、命の大切さを学ぶ機会となっていました。

さて、今はどうでしょう。いつしか、自然や命の大切さを学ぶ体験がゲームソフトの中に存在する時代となつてしまいました。この現象は、都会だけでなく田舎にも浸透しつつあります。

今、教育現場では、新学習指導要領でも、「生きる力をはぐくむこと」が目標として掲げられ、自然体験活動や集団宿泊活動などが推進されています。田舎体験は、自ら学び考える力、他人を思いやる力、たくましく生きるための体力などを身につけるための貴重な機会になります。



▲シャクちゃん（三方よし！近江日野田舎体験イメージキャラクター）

体験交流の受入家庭の声

- ・「特別なことをしなくてもいい。自分の特技や趣味を生かして受け入れてほしい」と町の担当の方に言ってもらえたので、頑張りすぎずにできるのであれば…と受け入れを始めました。普段、草木染めやフェルト手芸を趣味にしているので、そういった体験を中心に行っています。今まで受け入れたのは2回。1回目の受け入れはとても緊張しましたが、終わったらもう1回受け入れようと思えました。
- ・今まで何度も受け入れをしています。いつも受け入れた子どもたちとすぐに打ち解けることができ、夜にはまるで本当の家族のように接しています。毎回子どもたちの新鮮な反応が楽しみです。以前は土間を知らず、靴下で土間を歩いてしまった子どももいました。この受け入れが私の楽しみのひとつとなっています。

◆問い合わせ先 三方よし！近江日野田舎体験推進協議会
(事務局：商工観光課 商工観光担当)
☎ ②6562 有線 ⑤8965 FAX ②2043

